

日本版ISAの道 その100

「nisa おすすめ」、「nisa で買うなら」、「nisa で何をかう」
～既存投資家はREIT・アセットアロケーション型・グローバル債、
新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・グローバル債を買って
いる様だ～

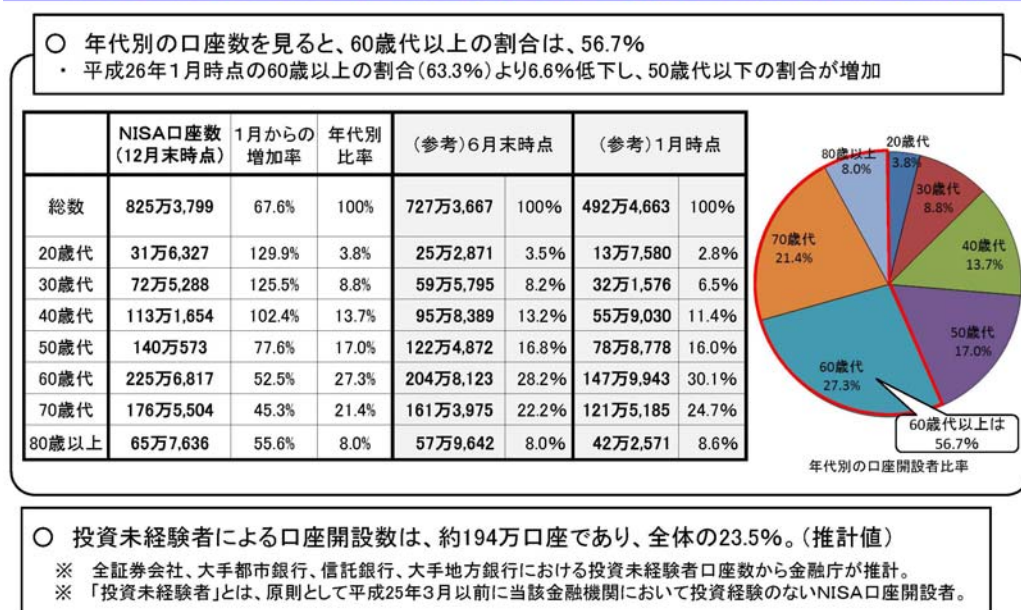
※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

「nisa おすすめ」、「nisa で買うなら」、「nisa で何をかう」などの検索が多くなっている！ 「膨大な情報のうち何を信じて買えばいいのか、なかなか決められない!!」

2015年5月6日(水)付 日本経済新聞に「特集——実力を測る、NISA 個人マネー着々と」という見出しの記事があった。そこに「投信の内訳をみると、不動産投資信託(REIT)を組み入れたタイプへの買いが目立つ。世界的な低金利が進むなか、相対的な利回りの高さが注目されているようだ。…(略)…。ただ、NISA 口座を開設しながら実際の投資には踏み切れない個人も多い。…(略)…。『膨大な情報のうち何を信じて買えばいいのか、なかなか決められない』(東京都内に住む20代女性)といった事情があるようで、金融機関は利用率の向上へ知恵を絞っている。」とあった様に、引き続き NISA 口座を開設しながら実際の投資には踏み切れない個人も多い様である。

ネットで検索上位を見ると、「nisa おすすめ」、「nisa で買うなら」、「nisa で何をかう」などの検索が多くなっている(後述※1 参照)。その検索キーワードの中を見ると、専門家の市場予想や推奨、各証券会社の集計結果、投信会社のリスク・リターン説明などが膨大に出てくる。確かにこれでは、個人、特に NISA 口座の 23.5%を占める投資未経験者にとって「膨大な情報のうち何を信じて買えばいいのか、なかなか決められない」はもっともかもしれない(投資未経験者…下記「NISA 口座開設数年代別内訳及び投資未経験者の口座開設状況」を参照)。

NISA口座開設数年代別内訳及び投資未経験者の口座開設状況



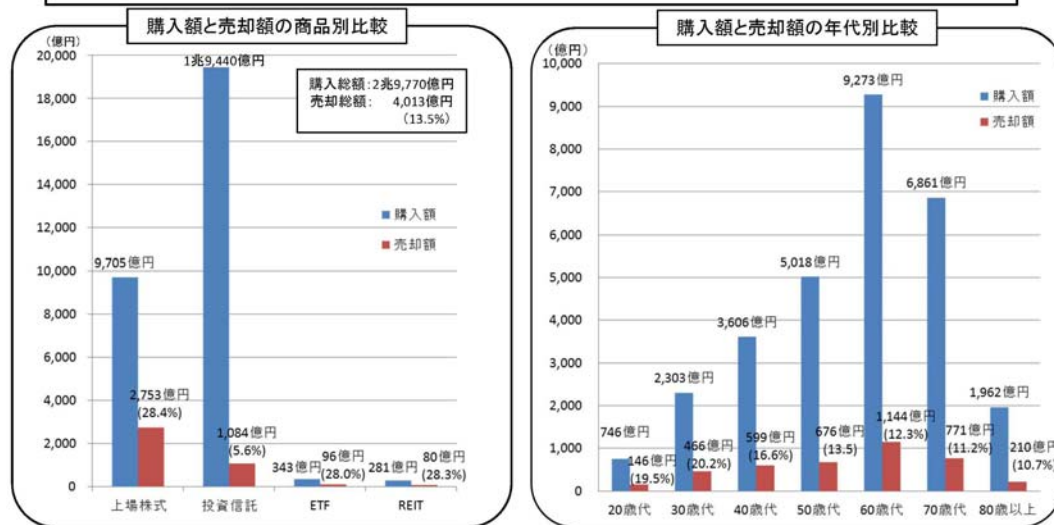
(出所: 金融庁「NISA口座の利用状況について」の p.2 より～URL は後述[参考ホームページ])

※1: 「nisa おすすめ」、「nisa で買うなら」、「nisa で何を買う」…2015年5月9日(土)に Googleトレンドでキーワードを「NISA」として「日本」・「2015年」で見ると、人気1位は「nisa 口座」、2位は「投資信託」、3位は「nisa 投資信託」、4位は「株 nisa」、5位は「nisa おすすめ」だった(Googleトレンド…URLは後述[参考ホームページ])。
 「2014年」で見ると、人気1位は「nisa 口座」、2位は「投資 nisa」、3位は「nisa 株」、4位は「nisa とは」、5位は「投資信託」で、上位10に「nisa おすすめ」は入っておらず、「nisa おすすめ」の急増がよく示されている。
 2015年5月9日現在、「nisa おすすめ」は約113万件となっている。その他、「nisa で買うなら」44.1万件、「nisa で何を買う」43.6万件も検索上位のキーワードとなっている。

「膨大な情報のうち何を信じて買えばいいのか、なかなか決められない」と言う個人に少しでも参考になればと言う考えで、今回も日本全体でNISAでは何が買われているか、最新月のNISA投資(投信分)を見る。投信を見るのは「2014年のNISA総買付額約3兆円の65.3%が投資信託でトップ、株式32.6%、ETF1.2%、REIT0.9%。年代別にみても、投資信託の購入額がどの年代でも最も多い」為である(投資信託でトップ…下記「NISA口座における商品別・年代別売却額の内訳及び購入額との比較」を参照の事)。上記※1のGoogleトレンドでも「投資信託」は上位に出てくる。

NISA口座における商品別・年代別売却額の内訳及び購入額との比較

- NISA口座全体の購入額に対する売却額の割合(売却率)は、13.5%。(注)
- 投資信託の売却率は、5.6%と、他の商品と比較して低い。
- 20、30歳代の売却率は、約20%。それ以上の年代では、年代が上がるにつれて減少。



(注) 購入額は購入時の時価で、売却額は売却時の時価で算出。

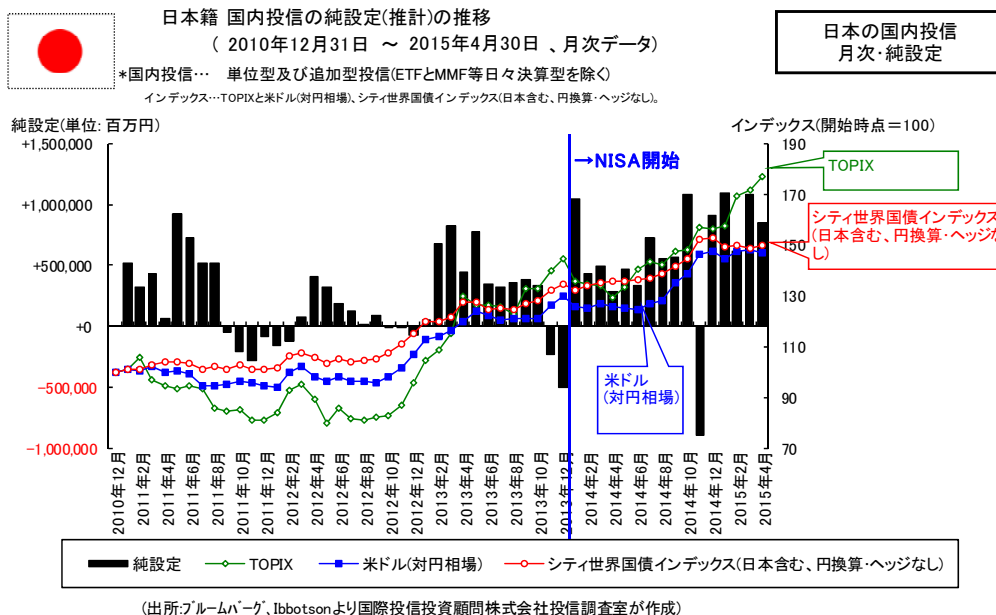
(出所: 金融庁「NISA口座の利用状況について」のp.7より～URLは後述[参考ホームページ])

人気のある投信を買う事とは、家電・パソコンや自動車・不動産などでもよく見られている「売れ筋ランキング」で買う事にも近く、参考になり、安心感もある。実際、各証券会社でNISAの集計結果、NISAの「売れ筋ランキング」を出しているのもその為であろう。

日本全体でNISAでは何が買われているかを見る上で、ここでは、投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家はNISAで実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが(先の60歳代以上に多い)、それを投信全体の動向で代替する。そして、後者の新規投資家をNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する。

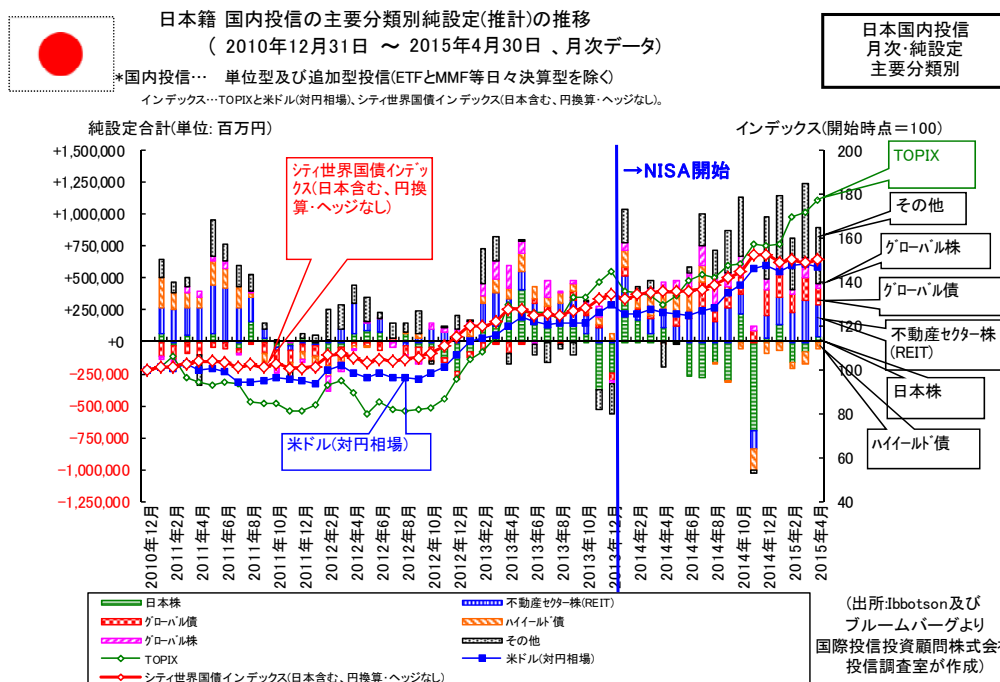
既存投資家は REIT・アセットアロケーション型・グローバル債を買っている様だ

まず既存投資家であるが、投信全体の純設定(推計)を見ると、最新 2015 年 4 月は+8541 億円と、前月 3 月のよ
 うな+1 兆円超えこそなかったが 5 カ月連続の資金純流入となった。

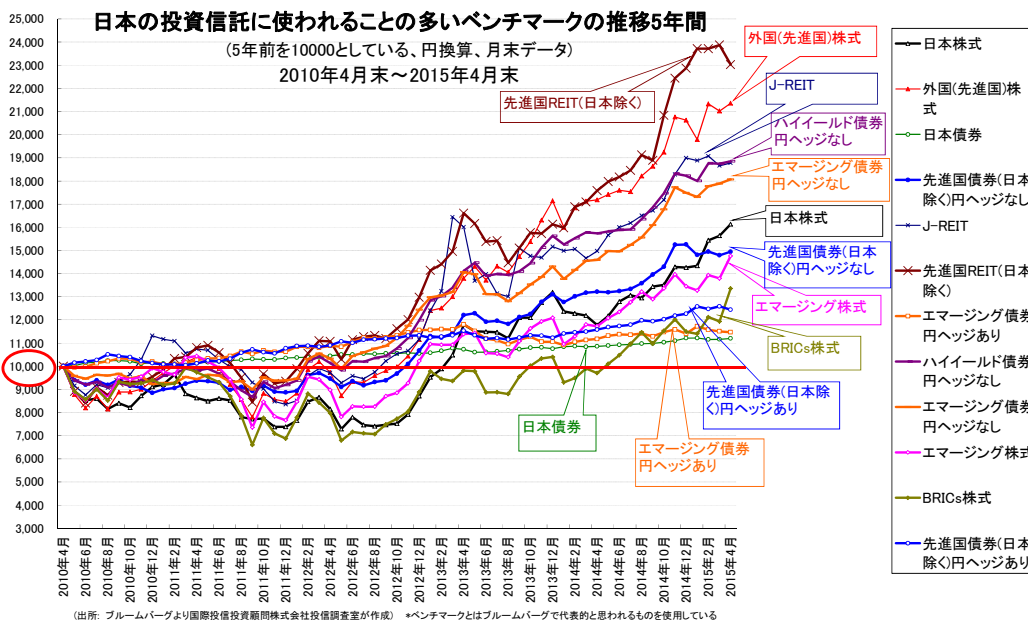


この既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。最新 4 月は前月に引き続き不動産セクター株 (REIT)が最も大きな純流入で、次いでアセットアロケーション柔軟型(資産を柔軟に変動させる型)、グローバル債、日本債、アジア株(除く日本)などに資金が集まっている(*主要分類…モーニングスター分類を用いて 2014 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。アセットアロケーション柔軟型や日本債、アジア株はその他に含まれる)。

2014 年からの不動産セクター株(REIT)の大きな純流入と、次いでグローバル債の人気の傾向は継続、2 カ月連続で純流出だった日本株は 4 月に純流入に転じている(2014 年については 2015 年 1 月 13 日付日本版 ISA の道 その 86 を参照～後述 URL[参考ホームページ])。

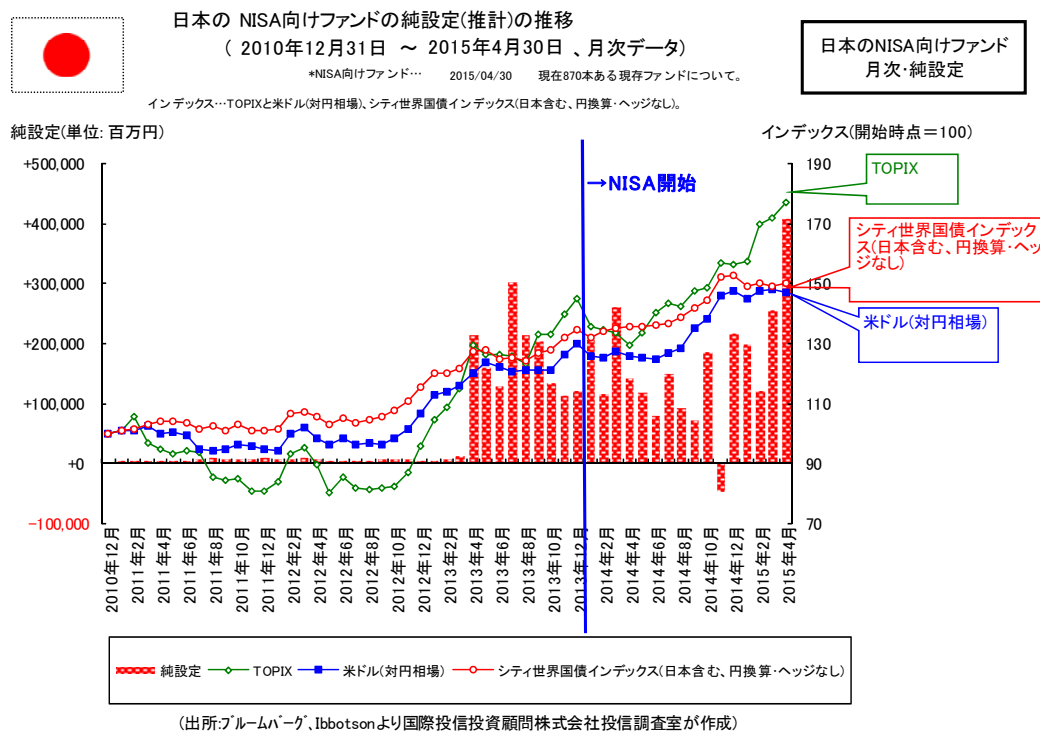


2015年4月に不動産セクター株(REIT)が最も大きな純流入で、次いでアセットアロケーション柔軟型、グローバル債などに資金が集まった背景だが、パフォーマンスの好きによるところが大きいと思われる。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが下記グラフである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、ハイイールド債券、J-REIT、エマージング債券、国内株式などとなっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・グローバル債を買っている様だ

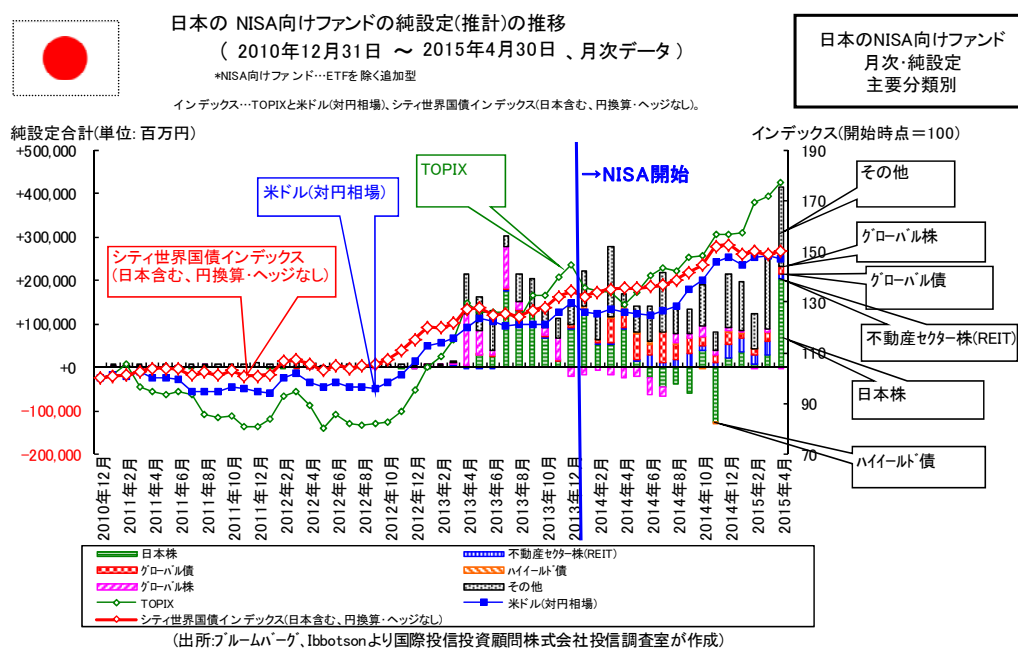
次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見ると、最新 2015 年 4 月に+4080 億円と、前月 3 月(+2548 億円)から 2 カ月連続で資金純流入が増加、NISA 開始以来で最大の資金純流入となった。



NISA 開始以来で最大となったこの新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いる。純流入 1位は日本株(前月3月は4位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(同2位)、3位はアジア株(除く日本)(同11位)、4位はグローバル債(同5位)、5位はアセットアロケーション積極型(同1位、資産を柔軟に変更はしないが株式が多い型)となっている(アセットアロケーション積極型/柔軟型およびアジア株(除く日本)は、下記グラフで「その他」に含まれる)。

2014年から既存投資家で人気の続いていた不動産セクター株(REIT)が、2015年2月1位、3月3位、4月7位と順位は下がっている。一方で、順位を上げているのが日本株で、2月の11位から、3月4位、最新4月は1位となり、全体の純設定額の約半分を占めるほど、日本株人気が強くなっている。

REITファンドの人气が低下し、日本株やアジア株の人气が見られる理由だが、これは足元で先進国REITやJ-REITのパフォーマンスが低下するなか、BRICs株式や国内株式、エマージング株式のパフォーマンスの好きが志向されているようだ。その他に、NISA向けファンドで日本株の純設定が大きい理由は、NISAでは投資信託が相対的に売却(解約)されていないことがあるかもしれない。金融商品別にみたNISA口座全体の購入額に占める売却額の割合(売却率)は2014年に、上場株式が最も高く28.4%、次いでREIT28.3%、ETF28.0%、最も低いのが投資信託5.6%だった(p.2の2015年4月24日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」の「NISA口座における商品別・年代別売却額の内訳及び購入額との比較」を参照)。



※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2015年4月30日時点で870本となった。

ネット証券における実際の人気は日本株・グローバル株

ここで、各証券会社の集計結果も見ておく。2015年5月7日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券では最新2015年4月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・4位はグローバル株ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・5位は日本株ファンドとなっている。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週2015年4月27日から5月1日までは、1・2位は米国株ファンド、3・5位は日本株ファンド、4位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年3月23日から3月27日までは、1位はグローバル株ファンド、2・5位は日本株ファンド、3・4位は不動産セクター(REIT)ファンドだった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2015年4月27日から5月1日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2位は日本株ファンド、3・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位はアセットアロケーションファンドとなっている。約1カ月前の2015年3月23日から3月27日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位はグローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015年4月27日から5月1日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・5位は日本株ファンド、3・4位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。約1カ月前の3月23日から3月27日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・4位は日本株ファンド、5位はグローバル株ファンドだった。

<NISA積立~2015年5月7日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015年4月27日から5月1日までのNISA口座では、1・3・5位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンドとなっている。

○マネックス証券では、5月7日時点での最新となる2015年4月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位は新興国株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている。

○カブドットコム証券では、5月7日時点での最新となる2015年3月のNISA口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1位はアセットアロケーションファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位は新興国株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。

ネット証券のNISA投資動向は、新規投資家と同様に、日本株の人気とREITファンドの人気低下、グローバル株や新興国株への人気も見られた。日本株の人気について、日経平均が2015年4月23日に20187.65円と2000年4月14日以来、約15年ぶりの高さとなる中で「株高局面で個人の売りが出やすいのは、株安局面で

安く買い高値で売る『逆張り投資』の個人が多いための。」(2015年5月2日付日本経済新聞)と言われる。これは新規投資家の所でも述べた通り、NISAでは投資信託が相対的に売却(解約)されていないことがあるかもしれない。金融商品別にみたNISA口座全体の購入額に占める売却額の割合(売却率)は2014年に、上場株式が最も高く28.4%、次いでREIT28.3%、ETF28.0%、最も低いのが投資信託5.6%だった(p.2の2015年4月24日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」を参照)。

以上、最新2015年4月において、既存投資家はREIT・アセットアロケーション型・グローバル債を買っている様で、新規投資家は日本株・アセットアロケーション型・グローバル債を買っている様である事がわかった。ネット証券における実際の人気は日本株・グローバル株などである事もわかった。「膨大な情報のうち何を信じて買えばいいのか、なかなか決められない」と言う個人に、少しでも参考になれば幸いである。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

[参考ホームページ]

2015年4月24日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成26年12月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150424-1.html>」、

Googleトレンド…「<http://www.google.co.jp/trends/>」、

2015年1月19日付日本版ISAの道 その87「ジュニアNISAは0歳から始めれば最長20年近くが非課税に!現行(成人)NISAと合わせ、4人家族で年400万円、累積2000万円!!家計の長期資産形成が大いに期待される。」…

「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150119.pdf>」、

2015年1月13日付日本版ISAの道 その86「税制改正大綱にジュニアNISA創設とNISA120万円への引き上げ!1月から年単位で金融機関の変更が可となり、NISA拡充に期待が膨らむ中、NISAの2015年分で何に投資する?

NISAの2014年分の投資(投信分)を総括!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150113.pdf>」、

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…

「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、

カブドットコム証券のNISA月間口座買付総合ランキング…

「http://kabu.com/item/nisa/ranking/fund_generation.html」、

SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/#nisa_ranking」、

2015年5月2日付日本経済新聞朝刊「株、個人の売り膨らむ4月売越額1兆6048円、利益確定売り新興株にも波及」…「<http://www.nikkei.com/article/DGKKZ086379570R00C15A5EN2000/>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。

○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。

・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。